

【授業科目】 人間発達学 Developmental Humanics

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
杉崎 一美、別所 史子	1年次前期	選択	1	15	講義	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対する フィードバック方法	<p>授業概要／人間発達学におけるエリクソン、ボウルビィ、ピアジェ、レビンソンなどの主な発達理論を学習し、人間が生涯発達し続けるという意味を学ぶ。そして、人間を発達という視点から理解し、各段階におけるライフサイクルと身体的・心理社会的側面の特徴を学び、発達段階における健康問題や看護援助について考える。課題は直接提出か、フォームスなどを活用する。</p> <p>課題に対するフィードバック方法：レポート・リフレクションペーパーなどについて、適宜、授業等でコメントする。授業内でフィードバックが難しい場合は、メール等にて対応する。</p>							
実務経験に関する 授業内容	<p>人間発達学に関する臨床経験をもつ教員が、人間のライフサイクルとしての発達、更に各時期の健康上の問題について、視聴覚器材や経験を交えながら指導する。</p>							
授業の 位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー⑤「将来に向け看護を主体的に学び、人間として自己の成長に努め、専門職としてのキャリアの基礎を形成することができる。」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>① 人間発達学の定義、関連用語を知り、人間発達学の意義を説明できる。</p> <p>② 発達理論の歴史とその変遷を知り、発達理論を説明できる。</p> <p>③ 胎児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期におけるライフサイクルの形態・機能的側面と心理・社会的側面とを理解し、各段階における発達の特徴を説明できる。</p> <p>④ 人間発達の視点から各段階における健康問題や支援について説明できる。</p>							
時間外学習に 必要な 内容・時間	<p>第1回～8回事前学習：各回に関係する文献を読んでおく。(各2時間)</p> <p>第1回～8回事後学習：授業で学んだことから関係する文献を読み、必要に応じて学びのレポートとして課題を課す。(各2時間)</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 人間と発達、発達理論とその歴史</p> <p>第2回 胎児期・乳児期の心と身体</p> <p>第3回 幼児期の心と身体</p> <p>第4回 学童期の心と身体 (ディスカッション)</p> <p>第5回 思春期の心と身体</p> <p>第6回 青年期の心と身体</p> <p>第7回 成人期の心と身体 (ディスカッション)</p> <p>第8回 老年期の心と身体</p>							<p>杉崎</p> <p>別所</p> <p>別所</p> <p>別所</p> <p>杉崎</p> <p>杉崎</p> <p>杉崎</p> <p>杉崎</p>
評価方法 評価基準	<p>定期試験 80%、レポートなど 20%で総合的に評価する。</p>							
教科書	舟島なをみ『看護のための人間発達学第5版』医学書院	参考書等	講義の中で興味深い書籍、文献を紹介する。					
学生への 助言等	<p>人間に興味をもち、発達という理論を学んでほしい。そのためには多くの文献を読み、探求する学修をしてください。</p>							